

男女共生社会に向けて ~愉しく欲張って生きる~

大宅映子さん講演会

市では男女共同参画週間の
記念事業として、6月30日に
評論家の大宅映子先生をお迎えし
講演会を開催しました。



最近私はこの世の中をみていると「常識」というものが、非常に失われていると思えてなりません。親殺し、子殺しに始まって政治家の不祥事、自殺者の増加など例を挙げればきりがありません。普通の「常識」から考えると、とても理解できるものではありません。教育のあり方も問われるところです。この現状を打開するには、一人ひとりが真剣に、「人」として一回しかない人生を愉しく生きていくために、何が最も大切なことなのかをよく考えなければなりません。それにはまず優先順位をよく考え、自己責任で自分の行動を決定し生きていくことだと思います。

また、次に気になることは仕事と生活のバランスがこわれていることです。家族とのコミュニケーションも少なく、多くの男性は家族とあまり生活していないのではないのでしょうか。残業の連続、休日も仕事で、ゆつくり休息する時間もなく、ひいては過労死を引き起こすという現実もあります。もうそろそろ男性の働き方を変える必要があると思います。

役割であり、とてもすばらしい仕事です。よく考えていただきたいと思います。それから結果を同じにしないと差別であると思っている人がいますが、それは差別ではなく単なる違いなのです。どっちが上等とかいう問題ではないのです。みんな違ってみんな良いのです。チャンスや権利が平等であることが大事であり、競争すれば結果に差が出ることは当たり前のことです。がんばって生きている人がほめられない社会は元気が出ないのです。元気のある社会にするためにはみなさん一人ひとりが人に左右されることなく、自分で判断していくことを身につけることがとても大切です。

愉しく生きるための10か条

- 一、みんな一緒にやめて一人ひとりの物さしをもつこと。
- 二、相対的から絶対的な物さしへ（人と比較するのではなく、その人自身を認めることが大事）
- 三、安全第一主義をやめること（失敗から学ぶことも大切）
- 四、完璧主義をやめて80点でOKとすること（いいところを評価し80点で良しとする）
- 五、減点主義から加点主義にすること（100点から引くのではなく60点に足す感覚を持つ）
- 六、一律からメリハリに変えること

- （一律は砂漠に水みたいなので重点的に物事を考えることも大切）
- 七、所有から利用運用へ（日本人は何でも所有するのが好きで貯金はするが運用も必要）
- 八、平均主義から異能主義に変えること。（人と違う能力、得意なことを伸ばす）
- 九、数字からフィーリングへ（数字は説得力があるが、楽しいきれいとといった感覚的なことも大事）
- 十、予防から基礎体力をつけること（過保護、過干渉すぎると自立した人間にならない）

このようなことを頭においてリスクと思いつつも前に足を出していかないと、自分に幸せは訪れません。幸せは誰かが与えてくれるものではありません。自分でつかむものです。みんなが各々の違いを認め合いながら一緒に生きていくと、この国はもっと輝いて楽しい社会になっていくと思います。もつといろいろなことに挑戦して一回しかない人生を大いに愉しんで生きていきましょう。

